



NPO 法人

茨城県防災士ネットワークだより

発行日 平成 27 年12月吉日

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士ネットワーク

責任者 広報・機関紙部長

加瀬孝雄

1. 「平成27年9月関東・東北豪雨」における大規模被害

平成27年9月10日午後0時50分、常総市三坂町の鬼怒川の堤防が決壊し、大規模な浸水被害に見舞われた。県、及び県警察本部は午前、災害対策本部を設置し自衛隊への出動要請が行われた。茨城県内での総雨量は観測史上最大を記録した。

これは50年に一度の記録と言われ、鬼怒川が決壊し常総市では、一時 11230 世帯に避難指示が出され、浸水範囲は約40平方キロメートル(9月12日時点、国土交通省調べ)におよび、住宅多数が流された。

また、県全体では9月19日時点で床上並びに床下浸水が約 12,000 戸(県災害対策本部)におよび、人的被害では死亡者 3 名、重症者 2 名となった。

この大災害となった原因は、台風18号による積乱雲が長期にわたり関東上空に居座り、茨城・栃木両県に大雨をもたらした線状降雨帯(南北約 200km×東西約 500km)によるものであると言われている。



2. 日本防災士会本部と協働で被災地へ支援活動を展開

被災地の2回にわたる支援活動

(第1回)：9月23日(水・祝日) 日本防災士会本部と当法人茨城県防災士ネットワークが協働し、常総市沖新田町の被災家屋5軒に分かれて災害ボランティア活動に従事した。(参加人員61名中、当会員23名)

男性の作業は、床下はがし、床下への消石灰まき、汚泥をスコップで土嚢に詰める作業等を行い、女性は、浸水で汚れた食器洗い、食器棚の清掃、食器の片付け等の作業を行った。

(第2回)：9月27日(日)、前回と同様、日本防災士会本部と協働し、鬼怒川決壊現場近くの常総市三坂地区の被災家屋4軒を、分かれて作業した(参加人員41名中、当会員14名)。

この日の主な作業は、消石灰を使った床下消毒、ガラス戸、窓、障子、ふすま等の泥落とし、玄関及び敷地内の清掃を実施した。一部、高圧洗浄機を使用し、作業の効率化を図った。

被災地では、鬼怒川決壊により激流にのまれ、家屋を失い、倒壊等に悄然として立ちすくむ罹災者へ寄り添い、清掃、片づけ作業等を行い、罹災者の多くの方々から、深い感謝と御礼の言葉を頂いた。



ボランティア・任務付与



女性陣による、食器・皿洗い作業

3. 県内被災地(神栖市・鹿嶋市・潮来市)視察研修会の実施

9月6日(日) 鹿嶋市並びに神栖市の津波、液状化等の被害を受けた地域を視察研修した後、神栖市中央公園(防災公園)を35名が見学した。同公園は、6万人を収容できる19畝の敷地に、備蓄倉庫(1万人×3日間分の食料)をはじめ、太陽光パネル、飲料水を確保する為の耐震性貯水槽、防災トイレ、かまど、ベンチ、自家発電機、



防災パーゴラ

ふれあい合いの丘(標高15m)、ヘリポート、防災パーゴラ等の合理的な防災機備えた広大な防災拠点の説明を受けた。

なお、「エフエム鹿島市民放送」では、東日本大震災当時、身の安全、対処のあり方を緊迫した状況で市民に伝え、注意喚起した貴重な録音放送を聞くことができた。また、鹿嶋神宮宮司から鳥居の損壊と再建の道のりについて説明を受けた。

その後、液状化被害の大きかった潮来市日ノ出地区において、被災者から液状化で水と砂が噴水のように舞い上がり、家や塀が沈み、傾く異常な体験談を語っていただき、我々も液状化の破壊力に改めて脅威を感じた。

4. 県外被災地研修会(福島県いわき市)の実施

10月10日(土)～11日(日)にかけて、福島県いわき市内の被災地4か所を視察した。本事業は、北関東連絡協議会との共同事業として実施した。

福島県土木部いわき建設事務所担当者から復旧・復興の状況の説明を、北関東三県の防災士25名が受けた。

目指すは「災害に強い街づくり」を前提に「安心・安全な暮らしの確保」に全力で取り組むという、強い信念と姿勢を感じ、頼もしく感じた。また、宿泊所に於いては意見交換が行われ、親睦を図ることができ有意義であった。

(記事及び写真提供: 渡辺 平 防災士)



5. ジュニア防災スクールの開催(本年度初めての開催)

本年度、茨城県が補助事業として募集した「女性活躍推進企画提案事業」に、当ネットワーク女性部から「ジュニア防災スクール」として提案し、認可された。本件は、県内の小学5～6年生とその保護者を対象に「子供にもできる防災対策を体験し、想定される大災害に備えることを目的としている。

本事業については、城里町、阿見町、並びに水戸市住吉上町で実施済みであり、平成28年1月にひたちなか市で実施予定である。これまでの主な実施内容は、子ども達に消火器による放水体験、かまどを使った炊飯体験、非常食試食体験の他、防災グッズ工作体験として、段ボールによるベッドづくり、新聞紙を使ったスリッパ作りや、新聞折り込みチラシによる紙皿(小物入れ)等の工作を行った。



段ボールのベッド作り

子ども達は出来上がったダンボールベッドに寝転んだりして感触を楽しんでいた。今回実施した体験型防災イベントは、子供だけでなく、保護者の方達も興味を示し成功裡に終わった。今回の指導には、横田信子防災士、柴田美智子防災士始め、数名の防災士に協力いただいた。



楽しい非常食の試食会



消火器による消火訓練

6. 常陸太田市学校防災推進委員会主催の HUG 訓練の実施

11月20日(金)、常陸太田市大里ふれあい広場において、常陸太田市学校防災推進委員会主催で市内の教頭及び防災教育担当教諭 48 名を対象に「災害時に学校が避難所となった際の対応について」と題して、HUG 研修が行われた。

研修では右に示す写真のように、拡大した避難所の略図を利用して各班の討議が行われた。読み上げカードの枚数も多く、開始当初は戸惑いも見られた様子であったがさすがに先生だけあって、最終的にはほぼ適切に避難所の運営が行われた。



7. 水戸地区において自主防災組織を設立

去る8月30日、水戸市吉田市民センターにおいて、同市吉田地区の自主防災組織「住吉上防災会」(400世帯)を立ち上げ、その開催式典が行われた。式典には、茨城県防災環境商工委員長・館県会議員や、高橋水戸市長等の挨拶があった。設立に当たり、当ネットワークの加瀬孝雄防災士が中心的な推進者となり活動したこともあり、当ネットワークの西村正夫理事長が来賓者として出席した。

議事にあたり、設立要旨説明後、事業計画、予算案、役員を選出、組織の役割、任務分担、規約、防災計画等の案が示され、加瀬孝雄防災士が同防災会会長に選任・承認された。

なお、第1回の防災イベントは、11月29日に水戸市役所、消防予防課、防災士ネットワーク、日本赤十字社水戸支部等、子ども、大人70名の参加があった。子ども達は、「楽しかった。来年もやりたい」と次期開催を期待しており有意義な研修となった。消防予防課では「内容も充実し、マンネリ化を打破できる。他にも勧めたい」等のコメントを頂いた。

8. ひたちなか市災害ボランティアリーダー研修会

県央エリアでは、12月15日(火)、ひたちなか市総合福祉センターにおいて、ひたちなか市社会福祉協議会が主催の「災害ボランティアネットワーク」構成13団体20名を対象に、災害図上訓練(DIG)を行った。想定問題を策定する際に「茨城沿岸津波対策検討委員会」が示した、最大クラスの津波マグニチュード M.8.4 最大予想震度7(震源:茨城沖～房総沖)による最大浸水深5m、到着時間33分、等の「津波浸水想定」を基準とし、ひたちなか市の津波避難マップ(津波最大遡上高 10m(平磯地区))を使い、町並みの地図としては、ひたちなか市湊公園周辺の地図を拡大して使った。



研修者からは、「古い町並みで行き止まりが多く、また道幅が狭い道路がある。湊公園への避難道路を多く設け、イザという時に利用できるよう働きかけたい」等、真剣な討議が交わされた。

9. 各種講演会・研修会の実施

(1) いばらき防災大学関係(茨城県生活環境部 防災・危機管理局 防災・危機管理課)

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	実施場所	参加会員氏名
防災士の役割・自主防災組織の課題と活性化	流通経済大学	西村正夫

DIG 訓練	龍ヶ崎市立愛宕中学校	貝塚 勇、横山松夫、山田 章、鶴長文正、飯島実喜男、林 昌子、中村義徳
--------	------------	-------------------------------------

(2) 学校関係

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	対象団体名	参加会員氏名
児童、生徒を中心とした防災教育	つくば市立桜中学校	鶴長文正、山田章、中村義徳、中島良夫、貝塚 勇、宮本博海、田中 寿、横田信子、黒田一雄、福島末輝、中村 隆
	常陸大宮市立上野小学校	井上亮二、益子さや子
	茨城県立結城第一高等学校	鈴木 勇、安東正好
	鹿嶋市立豊郷小学校	野口正弘、石引公子、長屋和宏、若林美智子、野村 彰
	守谷市立守谷小学校	猪塚光彦、川村玲子、山田教嗣、中村義徳、安東正好、齊藤友孝
	茨城県立結城特別支援学校	益子さや子、鈴木勇、安東正好、藤井 仁

(3) 自治会、自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた防災講演は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
避難所開設訓練	みと女性フォーラム研修会	益子さや子、柴田美智子、横田信子、加瀬孝雄、志村謙一、豊崎吉光
避難所開設訓練	笠間市社会福祉協議会	志村謙一、加瀬孝雄
災害図上訓練 DIG	ひたちなか市社会福祉協議会	豊崎吉光、志村謙一、渡辺 平、加瀬孝雄、阿久津聡
ジュニア防災スクール	水戸市住吉上防災会第1回防災イベント	横田信子、柴田美智子、加瀬孝雄
防災の基礎知識	結城市豊上地区「新堀地区防災組織」	福島末輝、横田信子、安東正好、鈴木 勇
ジュニア防災スクール	城里町社会福祉協議会	横田信子、柴田美智子、皆川 泉
防災講演	鹿嶋市平井まちづくりセンター	野口正弘、野村彰

(4) 学校防災推進委員会等の避難所開設訓練

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	対象団体名	参加会員
避難所開設訓練	笠間市学校防災推進委員会研修会	志村謙一、加瀬孝雄、益子さや子、柴田美智子
避難所運営訓練(HUG)	常陸太田市学校防災推進委員会研修会	柴田美智子、益子さや子、井上亮二、加瀬孝雄、豊崎吉光、渡辺 平、志村謙一、櫛田 英、高橋 茂

(5) 防災訓練への参加

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

	対象団体名	参加会員

防災フェア 2015	龍ヶ崎市、龍ヶ崎市防災会	野村 彰、山田 章、鶴長文正、横山松夫、宮本博海、中村 隆 野口正弘、関谷美子、山越寿夫、間宮和光、藤城充英、小池 寛、西村正夫
桜川市総合 防災訓練	桜川市、茨城 県の合同	高橋 茂、中村 隆、黒田一雄、鈴木 勇、荻野悦男、高山芳男 矢野靖彦、矢野恵津子、山田 章、安東正好、福島末輝、西村正夫
阿見町総合 防災訓練	阿見町役場 交通防災課	藤城 充英、中村 隆、福島末輝、小池 實、貝塚 勇 林 昌子、宮本博海、鶴長文正、中島良夫、間宮和光、西村正夫
取手市総合 防災訓練	取手市安心安 全 対策課	野村 彰、山田 章、宮本博海、中村 隆、藤城充英、 中村義徳、長屋和宏、田中 寿、黒田一雄、福島末輝

10. NHK おしえて防災士コーナーの出演報告

昨年に引き続き、NHKからの依頼があり、4月から実施中です。前号（第012号）以降に放映された内容と出演者は以下のとおり

9月・防災訓練に参加しよう

防災士
安東正好



10月・これだけは備えて

防災士
若林美智子



11月・火災から身を守る

防災士
山本みゆき



12月AED使えますか

防災士
関谷美子



なお、昨年4月からの上記放映に関しては、NHK水戸放送局ホームページの「おしえて防災士」コーナーにアップされているので、そちらを参照されたい。

11. エフエムかしま市民放送「安全・安心教室」のコーナー

第4回までについては、既報・防災士日より 第12号を参照されたい。

	月別テーマ	担当エリアと 担当者	収録 日	回 数	内 容
9月	「防災の日」災害から身を守るには	県央エリア 志村謙一防災士	8/26	第5～9回	大地震に備える、緊急地震速報が出たら他
10月	秋の夜長、家族で防災について考えよう	女性防災士 柴田美智子	10/2	第10～13回	こどもの防災、学校篇、家庭篇 他
11月	秋の夜長、家族で防災について考えよう	県北エリア 小川欽也防災士	10/20	第14～ 17回	大地震に備える、家庭～寝室・リビング 家庭で備蓄を考えよう 他
12月	冬の防災	県西エリア	11/30	18回	大地震に備える、思いもよらぬ時に遭遇、

月		鈴木 勇防災士 県央エリア 志村謙一防災士		第 19～ 21 回	就寝時、入浴時、冬の災害あれこれ 乾燥注意報、火の取り扱いに注意。 年末年始を安全に過ごす 他
---	--	-----------------------------	--	---------------	---

“3.11 あの日 わたしは”

東日本大震災発災時の活動

NPO 法人茨城県防災士ネットワーク

つくば南ブロック長 若林美智子

防災士になるきっかけ

東日本大震災、その時、夫は介護帰省で羽田に、娘は友人と他県へ、私は市役所に高校が休みの息子だけが家にいた。新しい市役所の6階で尋常ではない揺れにあった私は、大きな柱の近くに思わずしゃがみ込んだ。そのまま椅子に座り続けている人々が同じ人間に思えなかった。揺れが収まり、市役所には地震の概要と災害対策本部のアナウンスが響いた。丁度、夫の搭乗機が離陸する時間だった、時計の針を今でもはっきりと覚えている。私は庁舎のロータリーにいた知り合いに声をかけ、一緒に帰路についたが、途中にあるショッピングセンターからは人々が混乱した様子で外に出ていた。私が住む竹園地域は停電と断水になっていたため、片側3車線の東大通りにある信号機も消えていて左折、左折で帰宅した。自宅では生活上の備えをしていなかったため夜の食事と飲み物を買いにコンビニに寄り、バイト先の安全を確認し、トイレ用にオムツなどを揃えた。家の中に被害はなく、息子が片付けたようだった。そして彼は言った。「風呂に貯めたお湯は、僕のだからね」！！！！ああ、備えていないとこういうことになるのかと思った。繰り返す強い余震のなか、居間に用意した寝床でラジオを聞きながら朝を迎えた。近くで開いている店舗には、土浦市などからも人が来て、買い物は2時間かかり給水場所まで水を取りに行く日が続いた。

また、原子力発電所の爆発が招いた目に見えない恐怖は、余震の恐怖と相まって、1年間私は緊張した精神状態にあった。翌年、地域で防災について話合いがあったとき、防災についての知識がないためにアイデアが出て議論が続かなかった。そこで防災士という人材を地域で育てようと総会で決まり、その第1号に私になった。回覧で少しずつ防災の話をする中で暮らしの中への浸透を図っていった。3.11は、地域にとって「災害への備える大きなきっかけ」となった。

◎今後のイベント案内

(1) 茨城県防災士ネットワーク 10周年記念行事の開催

ア 開催日時 平成28年2月13日(日)午前10時から

イ 開催場所 茨城県水戸市大工町1-2-3 トモスビル水戸3F

(株)フロンティア水戸 電話 029-300-2050 fax 029-300-2052

~~~~~ 記 ~~~~~

#### (2) 第6回ブロック長会・会員スキルアップ研修会(講師養成講座)の開催

ア 日時 平成28年1月31日(日)午前10時から16時まで

イ 場所 茨城県総合福祉会館 4F 小研修室

ウ 研修内容

- ・ 常総市ボランティアに参加して 渡辺 平 防災士
- ・ 避難所開設・運営研修 中村 隆 防災士

- ・ 避難所運営について 小川欽也 防災士
  - ・ 女性の視点を活かした防災対策の推進 横田信子 防災士
- エ 申し込み 各エリア長に申し込み、各エリア長はまとめて黒田防災士 宛 1月12までに報告する。

オ その他 講師認定証を持っている方は持参して下さい。弁当は、一括購入しますので、参加申し込みと同時にお願いします。

カ 問合せ先 ご不明な点については、福島末輝防災士までお願いします。

## ◎市町村の防災担当課の皆様へ

NPO法人茨城県防災士ネットワークでは、防災講演会や研修会の講師、DIG(災害図上訓練)やHUG(避難所開設ゲーム)、防災マップづくりなどの指導も行っております。

講師をお探しの場合は、下記までご連絡ください。

窓口：福島 末輝 (役職 副理事長(兼)企画・研修部長) TEL: 029-842-1823(自宅・FAX 兼用)

住所：〒300-0842 土浦市西根南1-12-44

メールアドレス: [sueki-f@jcom.home.ne.jp](mailto:sueki-f@jcom.home.ne.jp)



### 会員の皆様へお願い；

「3.11あの日 わたしは」のテーマで会員皆さんが3.11の当日、またそれ以降に行動した記録を募集しています。原稿は、400～500字程度でお願いします。

・送付先：〒310-0844 水戸市住吉町15-3 加瀬 孝雄 宛

・Eメールアドレス: [abcd25621@yahoo.co.jp](mailto:abcd25621@yahoo.co.jp)

・Tel(Fax 共) :029-248-1097